

2013年7月3日

横浜美術館コレクション展 2013年度第2期

収集のよろこび ―美術館にみる個人コレクション

写真展示室：特集展示 アンディ・ウォーホル

The Exhibition of the Collection of the Yokohama Museum of Art

Art Collectors' Delight: Individual Collections at Yokohama Museum of Art

Andy Warhol

2013年7月6日(土)－9月16日(月・祝)

横浜美術館



横浜美術館の収蔵作品の中には、個人コレクターの旧蔵品が数多く含まれています。2013年度第1期のコレクション展では、「贅美小舎」こと、上田國昭氏・克子氏夫妻によるコレクションをご紹介いたしましたが、第2期では、7つの個人コレクションに着目します。

コレクターが作品を収集するきっかけや関心のあり方は、実にさまざまです。日常生活の中で美と向き合う時間を求めて、画廊などで少しずつ作品を買い集めることを喜びとする人もいます。あるいは、アーティストを支援するという社会貢献の志から、コレクターとなる人もいるでしょう。もしくは仕事の関係などで気が付けばまとまったコレクションを持つことになった人もいます。

横浜に本社を置く株式会社サカタのタネを1913年に創業した坂田武雄氏(1888-1984)は、種苗の生産・販売を手がける実業家として多忙を極める中、西洋近代美術作品の収集に情熱を注ぎました。高い審美眼に貫かれたそれらの作品のうち52点が、開館前の1983年に寄贈されました。

版画の刷り師である木村希八氏(1934年生まれ)は、多くの画家・版画家とともに実験的な刷りに取り組んできました。当館では、アーティストとの協働制作の成果として木村氏の手元に残されたプリンターズ・ブルーフ(刷り師用の保存分)やアーティスト・ブルーフ(アーティスト用の保存分)の中から、6人の画家・版画家による200点あまりの作品を、1988年に受贈しました。

さまざまな性質から成る個人コレクションは、美術館に収蔵されることによって、広く人々に親しまれるようになります。コレクターの作品への想いや愛情は、美術館の中で、永く息づいていくといえるでしょう。

本展では、さらに小説家・大佛次郎(1897-1973)の没後40年を記念し、大佛次郎記念館との連携により、大佛が収集したフランス人画家ポール・ルヌアール(1845-1924)の版画も展示します。

また、写真展示室では、2013年度横浜美術館コレクション・フレンズ対象作品の一つである、アンディ・ウォーホル(1928-1987)の《キャンベル・スープII》を中心に、ポップアートの作品を特集展示します。あわせて、ヨコハマトリエナーレ2011に出品され、2012年度に当館に収蔵されたピーター・コフィン(1972年生まれ)の映像作品《無題》をご紹介します。



上) ギュスターヴ・モロー《岩上の女神》1890年頃、水彩、紙、30.2×19.7cm、坂田武雄氏寄贈

下) ギュスターヴ・クールベ《海岸の竜巻(エトルタ)》1870年、油彩、カンヴァス、65.0×71.0cm、坂田武雄氏寄贈

本展で紹介する、個性あふれるコレクターたち

○ 坂田武雄コレクション

種子や苗木の生産販売を行う坂田農園（現：株式会社サカタのタネ）を1913年に横浜に創業した坂田武雄氏より寄贈された西洋近代美術のコレクション。

ーギュスターヴ・クールベ、ギュスターヴ・モロー、オーギュスト・ロダンなど

○ 山口久像コレクション

1920年に電気設備工事会社・共栄社を横浜に創業した山口久像氏とその令息・和宏氏より寄贈された近現代日本画と工芸。地元の画家や工芸家を支援することを喜びとした山口氏のコレクションには、彼らとの親しい交流によって直接収集した作品が多く含まれます。

ー中島清之、太田暁雨、井上良齋（三代）など

○ 松浦信太郎コレクション

1935年に港湾工事をはじめとする建設業を営む松浦企業株式会社を横浜に創業した松浦信太郎氏より寄贈された近代日本画。若い頃から画廊巡りによって審美眼を磨いた松浦氏は、事業の傍ら各地の展覧会や売立会に足を運び、日本画の優品を見出すことに情熱を注ぎました。

ー梶田半古、木島桜谷など

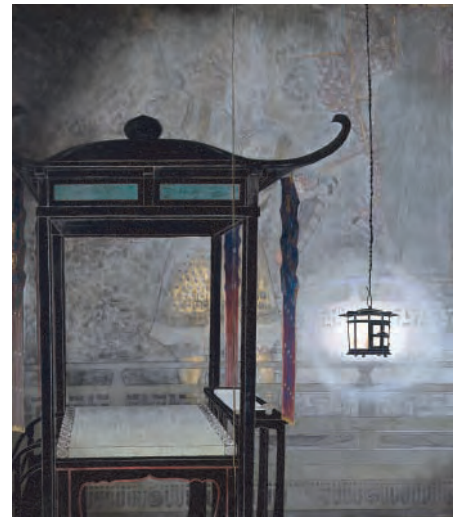
○ 綿野吉二コレクション

明治期の横浜で貿易商として「綿野商店」を営んだ綿野吉二氏は、横浜の陶工・宮川香山とも交流がありました。「綿野商店」に残された香山の陶磁器群は、令孫・綿野源衛氏に受け継がれ、2010年度に当館に寄贈されました。

ー宮川香山（初代～三代、工房作）の磁器・陶器



オーギュスト・ロダン《バルザックの頭部》
1897年頃、ブロンズ、H.25.2×22.0×18.5cm、坂田武雄氏寄贈



木島桜谷《秋野双鹿図》制作年不詳、絹本着色、軸、170.0×66.0cm
松浦信太郎氏寄贈

中島清之《方広会の夜》、1950年、紙本着色、2曲1隻
207.7×177.2cm、山口久像氏寄贈

○ 旧・大光コレクション

新潟県・長岡市の大光相互銀行のオーナーであった駒形十吉氏が収集したシュルレアリスムをはじめとする20世紀美術のコレクションは、1980年代に全国の美術館等に分散して収集されることとなりました。当館では、10点の旧・大光コレクションを収蔵しています。本展では、旧・大光コレクションの作品とともに、当館が所蔵するシュルレアリスムの代表的な作品を展示します。

ールネ・マグリット、ポール・デルヴォーなど

○ 木村希八コレクション

多くの画家・版画家と協働してさまざまな実験的な刷りに取り組んできたことで知られる版画刷り師・木村希八氏より寄贈された版画作品を紹介します。

ー小作青史、片岡球子など

○ 大佛次郎コレクション

大佛次郎記念館連携企画として、同館が所蔵する大佛次郎旧蔵のフランス人画家ポール・ルヌアールの版画作品を紹介します。19世紀末に『イリュストラシオン』『パリ・イリュストレ』などの雑誌挿絵で人気を博したルヌアールが描いた当時のパリの風俗や出来事は、パリ・コムニオンを主題とした『パリ燃ゆ』などの大佛の著作のインスピレーション源になったのかもしれませんが。

展覧会の見どころ

○コレクターの個性が反映された多様な作品集

コレクターはどのような想いで作品を収集するのでしょうか。本展でご紹介するコレクターたちの収集への想いやきっかけは、実にさまざまです。そのコレクションからは、彼らの人柄や生き様までもがうかがえるといえるでしょう。コレクションは、コレクターの人生そのものなのです。

○受け継がれる個人コレクション

個人コレクションの未来もまた、実に多様です。子孫に受け継がれ、故人の思い出とともに大切にされる作品、あるいは、新たなコレクターの手に渡る作品、そして、今回ご紹介するように、美術館の所蔵となり、多数の人々に親しまれることとなる作品もあります。横浜美術館では、寄贈や市の文化基金による購入によって、さまざまな個人コレクター旧蔵の優れた作品を収集してきました。それらは今日、約1万点におよぶ当館所蔵作品の一角を成しています。

関連イベント ※詳細は横浜美術館ホームページをご覧ください。

○ゲスト・トーク

本展でご紹介するコレクターの一人であり、様々な作家と制作を共にしてきた版画刷り師の木村希八氏を迎え、お話をうかがいます。

日時：7月29日(月) 14:00～14:40

出演：木村希八氏(版画刷り師) 聞き手：横浜美術館学芸員

会場：コレクション展ホワイエ、または展示室

※当日有効の観覧券が必要です

○視覚に障がいのある人とない人が共に楽しむ鑑賞会

対話をととして相互に作品鑑賞の喜びを深めるワークショップ
後援：横浜市文化観光局

日時：9月6日(金) 14:00～16:00

会場：コレクション展展示室、アートギャラリー2

定員：20名(要事前申込み、先着順)

参加費：無料

※当日有効の観覧券が必要です

※障がい者手帳をお持ちの方と同伴の方1名は観覧無料

※申込方法(メールまたは電話)はホームページでご確認ください

○エデュケーターによるギャラリートーク

さまざまな視点で作品を見つめ、鑑賞の楽しみを深めるエデュケーター(教育担当)によるトーク

日時：7月19日(金)、8月2日(金)、8月16日(金)、8月30日(金)

各日14:00～14:30

会場：コレクション展展示室

※当日有効の観覧券が必要です

○夏休み子どもフェスタ2013

美術館スタッフや中学校の美術の先生、市民ボランティアが、ワークシート、画材のキットなどを使いながら、対話を通して子どもたちの作品鑑賞をサポートします。

日時：8月6日(火)～14日(水) 10:30～15:30(受付は15:00まで)

※8月8日(木)は休館日

会場：コレクション展展示室

対象：小学生以上

参加費：無料

※当日有効の観覧券が必要です

※小学生以下は観覧無料。中学・高校生は土曜日は観覧無料

基本情報

横浜美術館コレクション展2013年度 第2期

2013年7月6日(土) - 9月16日(月・祝)

会場 横浜美術館

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1

TEL:045-221-0300 FAX:045-221-0317

<http://www.yaf.or.jp/yma/>

開館時間 10:00～18:00

(8月、9月の金曜日は20:00まで開館。入館は閉館の30分前まで)

※木曜日休館(8月1日、8月15日は開館)

観覧料 一般 500(400)円

大学・高校生 300(240)円

中学生 100(80)円

※小学生以下無料

※()内は有料20名様以上の団体料金(要事前予約)

※毎週土曜日は、高校生以下無料(生徒手帳、学生証をご提示ください)

※障がい者手帳をお持ちの方と同伴の方(1名)は無料

※毎月第3月曜日は、横浜市在住の65歳以上の方無料(「濱ともカード」をご提示ください)

※企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます。



小作青史《落下・A》1967年、リトグラフ(単色)、56.3×48.2cm、
木村希八氏寄贈